

SSKR

CIL 東大和南公園

第
16
号

編 集 NPO法人 自立生活センター・東大和

〒207-0013 東京都東大和市南街1-22-6 シティーコート南街1F

TEL : 042-567-2622 FAX : 042-567-2912

EMAIL : cil-ymt@violin.ocn.ne.jp

発行所 東京都世田谷区砧 6-26-21

障害者団体定期刊行物協会 定価 100円

お花見！！サクラもいつもより多めにシダっております！！



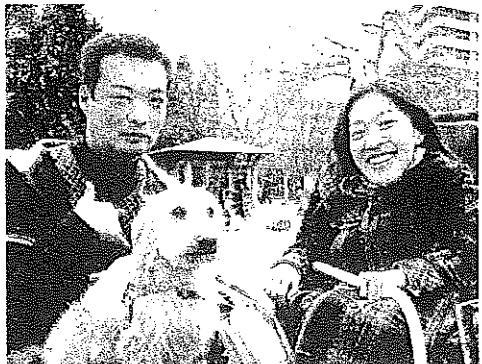
1. お花見

2009年4月5日（日）、東大和南公園にてお花見を行いました。ぎりぎりまで雨の予報で心配された天気も、当日は曇り空から次第に太陽が顔を出し、初夏のように爽やかなお花見日和の一日となりました！

2009年4月5日（日）東大和南公園にてお花見より

1. お花見報告	p12
2. 今年度・活動キーワードは、「つながり」	p3
A 利用者ミーティング	p3
B アテンダントミーティング	p45
3. 東大和市 総合福祉センターをめぐる動き	p6,7
4. 新人さんいらっしゃい&かえってきました石井さん	p8,9
5. ご協力のお願い	p9
6. JIL 総会	p10,11
7. 議員会館ロビーイング	p12
8. 伊善保グリーン牧場	p13-17
9. かりん燈特別企画 in 東京（5/23）	p18,19

東大和南公園でのお花見は、CIL 東大和の定番イベントとなりつつあります。今年は枝垂れ桜の下に集合。枝垂れ桜にはソメイヨシノの圧倒的な存在感とはまた一味違う、落ち着いた雰囲気があります。そしてなにより、枝垂れ桜は車椅子自線でも花が近い!触って香りを嗅ぐこともできちゃいます。これも嬉しいポイントの一つでした。



参加者は、スタッフ含め33人。(プラス わんこちゃん1匹)。アテンダントさんの奥様が来てくださいったり、また、当日飛び入り参加してくださった方が、たまたま利用者さんの1人とお知り合いで久々の再会を果たしたりと、嬉しい驚きもありました。

今回の食事は、事務所御近所のお惣菜屋さんに作っていただいたおにぎり&おいなりさんと、お弁当屋さんのオードブル。参加者の方々からもたくさん差し入れをいただきました。(ありがとうございました!)



東大和南公園には「旧日立航空機立川工場変電所」という建物があります。戦時中に、空襲や機銃掃射で受けた傷跡がコンクリートの壁に残る戦争建造物です。お花見日和とあって、公園はお花見をする人たちで賑わっており、この建物の前ではミニコンサートも開かれていて、軽快なギターの音色が響いていました。



あっという間の3時間でしたが、思いのほか強烈だった日差しに、日焼けをした方も多かったのではないでしょうか?

今年度最初のイベントとして、天氣にも恵まれまさに「花々しい」賑やかな幕開けイベントとなりました。今年度も、季節を感じながらみなさんと一緒に自一杯イベントを楽しみ、また来年のお花見を迎えるといですね♪

2. 今年度・活動キーワードは、「つながり」

今年度の CIL 東大和の活動においてのキーワードは、「つながり」です。つながりは、障害当事者とアテンダントとの間、アテンダント同士、そして、障害当事者同士と、色々な関係の中にはあります。地域の人たちもそうです。大雑把に言えば、結局のところ、人間同士のつながりです。地域でできうる限り、主体的に生活していくためには必要なものであり、そういう生活をしていく中で生まれてくるものでもあります。

CIL 東大和では、利用者の人が、イベントや IL、事業のあり方等を色々な人とつながって、一緒に考えたり、盛り上げていきたいと考えています。

現在のところ、具体的には、利用者ミーティング&アテンダントミーティング、各種イベントを開く他、ホームページの利用者・アテンダントコーナー設置、及び通信への寄稿を募集しています。

A. 利用者ミーティング

4月18日に、利用者ミーティングを開きました。これは、初めての試みです。CIL 東大和としても、いつでも利用者さんやアテンダントさんの話に耳を傾けるようにしています。しかしながら、利用者さん同士で集まって話し合うのは、機会としては少ないでしょう。

このミーティングは、単なる世間話会ではありません。まずは、利用者さんに CIL 東大和の活動や運営に対しても意見を頂いて、活動にいかしていくことができます。例えば介助派遣のあり方、事業の改善等、様々なことが考えられます。また、利用者さんがイベントの企画段階から最後まで関わることで、CIL 東大和の一員としての役割や達成感をえることにつながります。主体的な生活の一部にもなると思います。

今回は、スタッフを入れて 15 人の参加があり、主な議題は 6 月に行くバスツアーの行き先についてでした。場所の意見を出すと、その都度和気藹々とした雰囲気になりました。最終的に多数決サバイバルで「牧場」系が残りました。下見の結果、バスツアーは、群馬県の伊香保グリーン牧場になりました。

また、ミーティングの終盤では、イベント参加費積み立ての提案や、キャンセル料の話、連絡体制へのご意見等が話題に上りました。ミーティングの結果は参考にさせていきたいと思います。

こういうミーティングを重ねていくことでの、期待もあります。ゆくゆくは、利用

者さんが介助者を使うコツや介助の悩み、日常生活でぜひ聞いてほしい事などを、障害のない人との関係でのやりとりだけではなくて、やはりいろいろな利用者同士でざっくばらんに話し合える場になっていけばよいなと思っています。具体的にいえば、アテンダントとのトラブルの際に、どうやったら関係をダメにしないでお互いに意思の疎通をはかり、解決していくかを対等な関係で話し合う等、愚痴会ではありません。あくまで地域生活を送っていく上で建設的な、前向きなものを目指しています。さらにはそこからまた、障害当事者同士のつながりをつくりたいなと考えています。

次回の開催日は7月中旬を予定しており、利用者ミーティングは定期的に開いていきます。このようにCIL 東大和を利用者さんと一丸になって、盛り上げていきたいと思いますので、ぜひご参加ください。

B. アテンダントミーティング

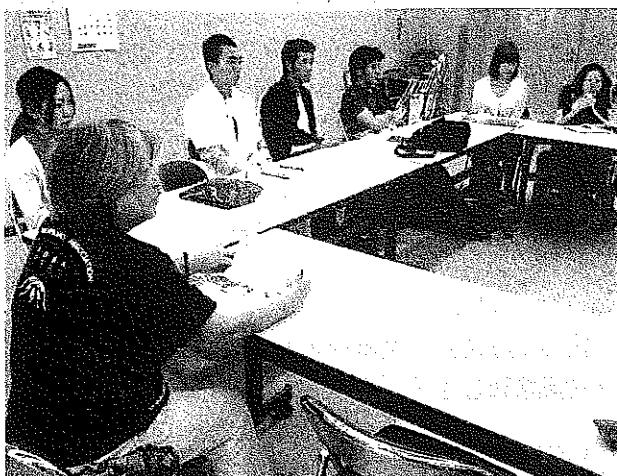
5月18日(月)に第一回のアテンダントミーティングを開きました。おもな議題は、「障害者自立支援法の報酬単価の引き上げに伴っての収益をどのような形で派遣の中で還元するか」についてでした。ミーティング終了後、感想を聞いてみました。

参加してみての感想

- ・他の人の話を聞いて勉強になりました。自転車通勤の分のパンク代とか、有給のこととか、etc. 自分的には別にどうでも良かったんですが、話を聞いて、それもありかと思いました。ありがとうございます。
- ・他のアテンダントさん達と悩みや疑問を共有することができて、とても心強くなりました。
- ・他のアテに接するいい機会だと思った。他のアテの意見や考えを聞くことができて非常に良いと思う。
- ・制度改変による報酬単価アップ、その具体的な使用法(?)について1アテンダント、こっちから意見が言えるとは正直あまり思ってなかつたので、こういった機会が設けられて嬉しい。
- ・他のアテンダントの意見は参考になりました。
- ・働く環境について直接意見を述べることの重要さや、自覚がもてることが良いなと感じました。
- ・普段なかなかアテンダント同士で話すチャンスがないので良い機会でした。
- ・楽しかった。・参加者が少ない(介助者の人は除く)

ミーティングの必要性

- ・この仕事は、どうしても現場と自宅の直行直帰になって、一人で働いている気持ちになりやすいので、定期的にこういうミーティングを続けて、事務所や他のアテとつながっていけたらいいと思います。
- ・ひんぱんに実施する必要はないと思ったが、タマにあると良いと思う。
- ・現場で働くアテンダントの生の声、希望を事務所が積極的に取り入れようとして下さるのはとてもありがたい事。事務所とアテが互いに良い関係を築くのに大いに役立つと思います。
- ・多くの人の意見を聞けるのは貴重な機会だと思います。
- ・事業所の事情（？）など聞けたり、アテとしての意識も高まる気がします。
- ・情報を知るため。・大切な事だと思います。



介助は利用者と1対1のやりとりなので、行き詰ったり、抱えてしまう気持ちもあります。そこで他のアテンダントの意見や悩みを聞けることはとても大きいことのようです。また、お互いに話し合うことで思わぬ「気づき」があります。なので、参加アテンダントの人もミーティングの必要性を感じていたようです。

事業所がアテンダントの声を聞いていく姿勢を持つことがアテンダントさんと良い関係でやっていくためには大切なことだと思いました。それが利用者さんとの良い関係にもつながっていく信じています。

なお、ミーティングで出た意見は参考にさせていただき、報酬の還元について決定し次第、お知らせしたいと思います。

3. 東大和市 総合福祉センターをめぐる動き

東大和市では、総合福祉センター建設を市長が公約しています。しかし、財政的な問題が大きい上に、どんなセンターが必要なのか意見がまとまりず、最初の計画通りには進んでいません。

CIL 東大和が入っている東大和障害福祉ネットワークでは、より市民の声を反映した総合福祉センター建設に向けての取り組みを行っています。まず、大きな流れを記述しておきたいと思います。

2004.3 多摩地区の保健所建設予定がとりやめになった東大和市桜ヶ丘の土地を、「保健医療福祉」の用途で10年間使うなら3割の値段で売りますよ、と決めた。

2006.5 東大和市第三次地域福祉計画に、保健所建設予定跡地に総合福祉センターを整備していく、と明記

2007.3 第1期東大和市障害福祉計画に、保健所建設予定跡地に総合福祉センターを整備していく、と明記

2007.9 東京都と土地買収契約書を締結

2007.6.29～2007.11.9 市民懇談会6回

(CIL 東大和からは海老原、小林が公募枠で参加)

→ 市民懇談会まとめが市長に上がる → 庁内で検討委員会発足

2007.12 庁議のまとめがホームページに上がる

→ 市のホームページ上にて「市民意見の募集」 期間はお正月中の1週間
※市報での広報はなし！

2007.12.25 市長に「周知方法の改善要望書」提出

→ 市民懇談会委員有志同時に写しを全市議会議員に郵送

2008.1 市民懇談会の意見と基本計画案の内容に乖離が見られる、等の理由で、全市議会議員に面会要望書提出 → 団体連名(CIL、卒後会、手をつなぐ親の会、肢体不自由児者父母の会、つばさの会、聴覚障害者協会、共作連)
10日間で6会派と面会。

2008.2 市長に「基本計画策定期限の延期を求める要望書」提出 → 団体連名(同上)

全員協議会で市議会議員に基本計画説明(基本計画の内容を初公開)

共産党の質疑に対し、市長答弁「市民合意を得られる基本計画作成のために、期限についても弾力的に考える」

「基本計画延期を求める陳情」を3月議会に提出 → 団体連名：同上

基本計画に対する要望書の回答文書が届く

- ・市民の意見は十分聞いています
- ・市民の意見を踏まえて検討しているので検討委員会に市民を入れる必要ない
- ・基本設計の段階で市民意見の募集はするが、運営協議会の設置は予定無し。

2008.3 陳情が3月議会厚生文教委員会にて趣旨採択。6月まで基本計画を見直す

2008.8.9月議会にて設計委託料など減額補正

2008.9 9月議会にて市民参加の検討委員会設置を求める陳情が採択される

2008.10 「実施事業説明会」にて、2事業追加する代わりに検討委員会は設置しない、と市が断言！

2008.11 市民懇談会にて、やっぱり検討委員会を置きます、と訂正

2009.2 市報にて、基本計画策定検討委員会の市民公募

2009.5 第1回 検討委員会

→東大和障害福祉ネットワークから代表の海老原が参加

→自立生活センター東大和から小日向が公募で参加

総合福祉センターには、障害者自立支援法に基づく相談支援事業や就労支援センターが入る予定です。

また、「総合」なのですから、障害者のサービスに限らず、子育て、高齢を含めた、市民全体の、福祉のよりどころになる場所でなくてはなりません。

「福祉」とは：公的配慮によって社会の成員が等しく受けることのできる安定した生活環境・・・と書いてありますよ、大辞泉には。ほら、見て下さい。「福祉」は障害者・高齢者・児童とかだけのものではないのですよ！「社会の成員（つまりすべての人）」が、しかも「等しく」受けることのできる「安定した生活環境」！それを実現するために一翼を担う場所を作ろうとしているわけ。

最近では、議会からも「本当にセンター建設は必要なのか！？」という声も上がり、市長も「建設はするが、その時期については財政状況を見ながら判断したい。」と表明するようになりました。今後、どう展開していくか分かりませんが、ぼじていぶに関わっていきたいです☆

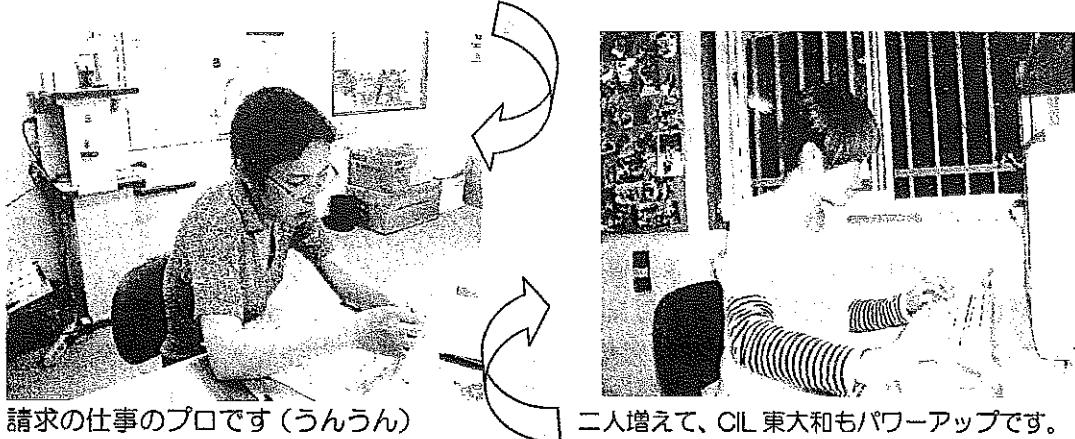
b y EB

4. 新人さんいらっしゃい&かえってきました石井さん

今まで育児と仕事の両立はありました、子供が1歳のお誕生日を迎える前に仕事復帰をしたのは初めてです。育児休暇中は、子供とのんびりとした毎日を送っていましたが、仕事復帰の時期が近づくにつれ、両立の不安やまたバタバタとした日常が戻ってくるのかと思うと、気が重くなることもありました。でも現実はそう言つてはられず、仕事をしないと生活が大変だし(していても大変ですが…)「もう来なくていいから。」と言われないだけいいのでしょうか…。

毎日、静かになることはない我が家ですが、やっぱり子供はかわいいです。妊婦さんを見ると、赤ちゃんが産まれるのかあ~いいなあと。でも、もう産めません、無理です。一人の時間を持つことがさらに遠のいてしまうので。それよりも、経済的にさらに圧迫されてしまうので。突然ですが、みなさんは一人でいるのは寂しいですか?私は一人になりたいです。たまには、し~んとした部屋にいてみたいものです。

事務所に来て何年か過ぎましたが、解らないことがまだまだあるので、もっと勉強しなければと思います。これからも、よろしくお願ひします。石井 真紀



請求の仕事のプロです(うんうん)

二人増えて、CIL 東大和もパワーアップです。

こんにちは。高沼萌と申します。4月からCIL 東大和の職員の仲間入りを果たしました。大学を卒業したばかりのひかぴか社会人1年生です。

私は学生時代、3年間小林さんの自薦アテとして介助に入っていました。夜勤がメインだったので事務所に顔を出すことも少なく、イベント等にもほとんど参加していなかったので、最近まであまり他の利用者さんやアテとかかわることがない孤独なアテでした。だけど、CIL の活動のお話を小林さんからいろいろと聞かせていただいて、こういうところで働きたいな~と漠然と考えていました。

そもそも私は高校生の頃あたりから、『日本にとどまらず世界に出て、世界中の国のひとと触れ合いたい』という欲求と『社会への間接的な貢献ではなく、ダイレクトにひとのためになる仕事がしたい』という欲求が将来の展望としてずっと基盤にありました。だからCILの活動を知れば知るほど魅力的に思えて、正職員になることもあまり迷わずに決めました。

とは言ってもまだまだ知らないこと・できないことだらけです。これからは、CILのことや支援法等の勉強・実践をしてスキルアップをしつつ、いろんな人(利用者さんも、それ以外のひとも!)と出会って楽しくやっていきたいと思います。今からすごく楽しみです。事務所で会ったらどんどん絡んでやってください!よろしくお願ひします!高沼萌

5. ご協力のお願い

CIL 東大和では、HP の充実にも力を入れています。利用者・アテンダントコーナーを新たにつくりました。そこでは、どんな人が CIL 東大和に関わっているのかを紹介していきます。趣味等が分かり、「あの人、そういう面白い人なんだとか、いろいろなことを知っているんだ」というように、より親近感が湧いてコミュニケーションが取りやすくなると思います。多くの人に参加してもらって、盛り上がりていきましょう。よろしくお願ひします。

東 大 和 市 朗

氏名

誕生日 4月 14 日

血液型 A 型

障害名(アテさんは介助歴)

PR

募集中

写真・PICTURE

ちなみに、内容ですが、実際はこのような形で載ります。今後、福祉祭等のイベント等においても、一緒に活動していきたいと考えています。

6. JIL 総会

5月の24、25、26日に全国のCILが加盟しているJIL（全国自立生活センター協議会）の総会がありました。

一日目は、薬害エイズ訴訟原告・川田龍平氏と、くにたち援助為センター代表・安積遊歩氏の一般公開のシンポジウムがおこなわれ、夜の部では、ともに人工呼吸器ユーザーであるCIL東大和の海老原とCIL北の小田氏による講演でした。

二日目は、自立者との自立後の関わりをテーマにした講演がありました。

午後に、各地のCILから東京のCILを訪問し、交流する企画が行なわれました。CIL東大和には、「宇都宮の自立生活センター栃木の当事者スタッフ・斎藤さん&介助者さん」と、「盛岡のCILもりおかの当事者スタッフ・今川さん」と、「広島のCILかんなべの介助コーディネーター・森田さん」たちがCIL東大和を訪問してくれました。



宇都宮市は交通の便が悪く、移送サービスに力を入れたいということで、移送サービスが関係する有償運送の法律の変更の点に聞き入っていました。支援法はサービスが周知されていないことで、自立者の人数が少ないので重度訪問介護744時間の時間数が出ていますが、きちんと知れ渡り自立者も増えれば、締め付けが厳しくなるでしょうとのこと。

盛岡市は、重度訪問介護は12h/日までが実質的な上限時間数で、生活保護等、他の制度を使っても、引き伸ばしをしないと24時間介助は難しい状況で、また、雪国なので、家から出られず行動不能になるときもあるというお話しでした。

広島県の安佐南区は、障害者福祉への姿勢が施設化なので、障害者の施設が多く、地域生活の話をすると施設職員も、施設にいるのが一番良いといって、取り付く島もない状態だそうです。また、家族も多くの方が、そういう考えに感化されてしまって、それが当事者たちにも影響しているのだと思います。

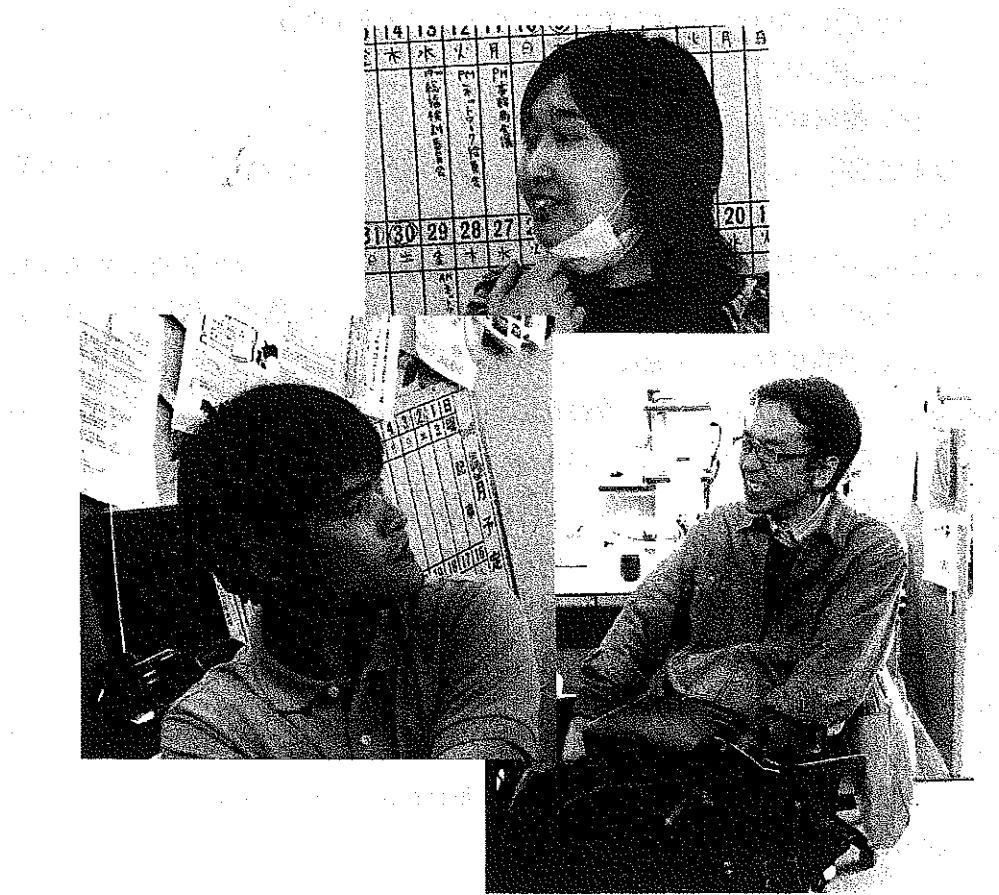


今回のこういう機会は、非常に面白かったのと、勉強になりました。ひとつのセンターに各地の人々が集まって話をする機会はなかなかありません。実際にセンターの特徴とか、地域ごとの障害者福祉の課題、設立当初のセンターの動き等が深くとまではいかないものの、知ることが出来ました。障害福祉サービスが乏しかった頃のこと

と想像しつつ、また、東京と地方の差が大きいことを感じ、安穏としていてはいけないと思いました。

交流会は東大和市内の作業所「食工房ばる」にお願いして、ボリューム満点のおいしいオードブル盛り合わせを作ってもらいました。

ありがとうございました。



7. 議員会館ロビーイング

全国の障害者団体及び、障害福祉団体が障害者自立支援法の見直しを求めて、国会議員に陳情を行なう全国大行動の様子を高沼さんに報告してもらいました。

新入職員として東大和事業所で働き始め2週間が過ぎた4月16日、政党シンポジウム＆国會議員ロビーイングに参加してきました！！

今回のロビーイングは、障害者自立支援法の見直しにあたっての「障害者の地域生活の確立を求める全国大行動実行委員会」主催・政党シンポジウム＆国會議員ロビーイングでした。ロビーイングなるものに参加するのは初めてだし、自立支援法がどのように変化したのか、そもそも自立支援法とはどんな内容でどのようなニーズで作られたものなのかもいまいち勉強不足だったので『わたしが行っていいものなのだろうか・・・』と、ドキドキしながら参加しました。

だけど実際に参加してみて、障害者の方々の訴えと、それに対する議員や秘書の方々の対応・障害者の地域での共生についての捉え方を間近で見ることができて良かったです。このような障害者と国会のダイレクトなやり取りなんて、なかなか見られるものではないと思います。

3月31日に障害者自立支援法の見直し法案が閣議決定されました。一時期は与党からも「抜本的な見直し」が叫ばれていましたが、法案は小幅な見直しにとどまっているそうです。

わたしは、議員回り中に海老原さんが言った、「ここに出てこられる障害者は本当に元気なほうで、まだまだ家から出られない障害者もわたしたちの後ろにはいっぱいいるんですよ。」という言葉が強く印象に残っています。自からうろこでした。私の知っている東大和の事業所に登録している障害者たちは自分でヘルパーを使って外出している人ばかりだったので、それができない人がいるなんてほとんど考えたこともありませんでした。それが、このロビーイングで一番考えさせられたことでした。

いま、これから私にできることは、どんどんロビーイングなどの活動に参加し、その場に出てこられない多くの障害者の代わりに主張の声を国会や世に伝えていくことにだと感じました。

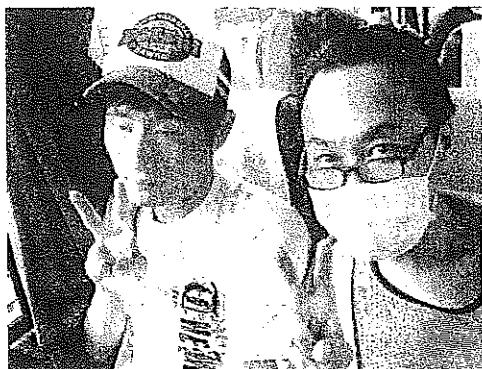
私は新人で、知識も経験も浅くまだまだわからないことばかりだけど、未熟な今だからこそいろいろな経験をして多くの人とかかわっていきたいと思っています。今回のロビーイングに参加できて良かったです。参加された皆さんお疲れ様でした。海老原さん、ありがとうございました。高沼 萌。

8.

伊香保グリーン牧場



6月12日に伊香保グリーン牧場にバスツアーで行きました。楽しみにしていたので、7：30前に出発です。みんな、やる気200%でした。みなさん、すんごく早起きをしたみたいですよ。Zzz。バスの中では自己紹介した後、さっそく旅行ムードです。



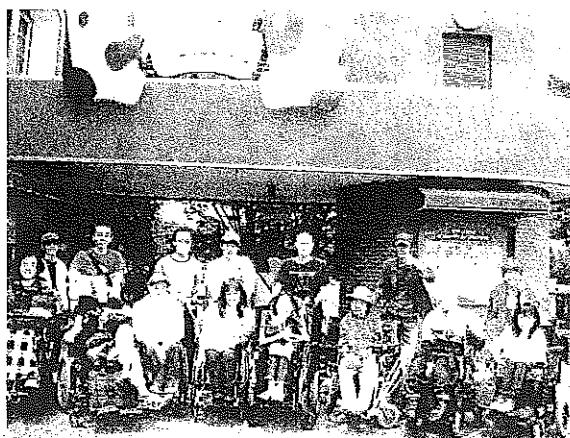
テンションがノッテきちゃいマシタ！！ おっかけがすすむ～♪歌分かからず、ビール一本完飲ですv (>_<) v



旅路はリフトつきバスで乗り降りもラック楽。運転手、バスガイドの方までついて、準備はばっちりでした。

途中バスの中で、ガイドさんによるミニクイズ～イムがありました。見事に正解する問題もあれば、まったくわからない問題もあり、退屈しないようにする気遣いがしみいりました。

まず、最初の目的地である上州物産館へ。思いのほか、順調で予定より先に着きました。おそば屋さんが聞くまでお土産を買ったり、雑談したりして、いざランチタイム。おいしいうどんをいただき、**グリーン牧場**へ



ついで早々に集合写真を撮り、いよいよ念願のらぶりーアニマルたちのもとへ。

途中でソフトクリームの誘惑に負けた人をよそにまっしぐらにすすんでいきました。

牧場入り口。これから楽しむぞっ！！

牧場内は、かなり広くて、牛、馬、羊、ヤギなどがいました。

牛の乳しぶりでは、ほとんど全員一列にならんで順番待ちです。一人一人順番に出



番です。一回で出る人もいれば、何回か頑張ってしぶった人もいます。

間近で見るホルステインは、車イスからの高さだと冗談なしに、軽自動車ぐらいの大きさがあったんじゃないかと思うほどでした(^^ゞ

仔やぎ舎では、仔やぎとコミュニケーションっと思ったのですが、なかなか仔やぎが近づいてくれずに、しばらくにらみ合いま……。車イスで仔やぎの行く手をふさぐものの、軽いフットワークでかわされたりと悪戦苦闘。

最後には、アテンダントSさんによりついに捕獲つつつつ！！！

仔やぎちゃんごめんね。





そして、なれば無理やりな?(いえいえ、シャイなやぎさんのです)コミュニケーションをとることができました。写真を力しゃり☆

めりーさんのかどうかはわかりませんが、ひ・つ・じです☆もこもこ~。メイちゃんのひつじ、あれは執事…。あとは、途中で競走馬ともふれあいました。



そうそうやっぱりソフトクリームはみんなで食べるものですよね。

バスツアーフormで旅行するのも今回で二年目。このまま恒例になっていくといいなあと思っています。



帰り道では、遊びきって疲れてうとうとしている人がほとんどでした。

私の写真でお見苦しいですが、これでバスツアーフormは終わりです(他の方の寝顔はNGと言われてしまっていたので。いい絵だったのになあ~)

そんなバスツアーに参加した人に感想を聞いてみました。



はじめて牛の乳しぼりをやって、
いい体験でした。(河野高明)



うまいもん食って、動物とふれあって等々、もりだくさんですげえ楽しめました。ソフトクリーム激ウマ。
(高橋正宏)

一昨年、悲しい出来事、昨年はつらい事が続いたけれど、今日は本当に楽しかったです。又ぜひ、出かけたいです。(奥州三郎)



二年続いた、悲しくつらい出来事、それを忘れるひと時でした。(奥州和子)



久々に市川さんの介助に入れて良かったです。
久しぶりで会えると嬉しいですね。(里田)



普段はなかなか接する事の少ない利用者さん達やアテのみんなと交流がもてる、とてもいい機会だと思っています。今回の遠足も特に大きなトラブルもなくとても楽しい一日でした。又、みんなでどっか行きましょう。(宮下賢一)



時間に追われず、のびのびと行動できたのがありがたかった。バス旅行は2度目になりますが、やはり楽しい!(竹内)





牧場でシープドッグショーを見たり、仔やぎに触れた事など、普段は出来ない事が色々体験できて、おみやげもたくさん買えたので大変楽しかったです。
(原良光)

グリーン牧場では、たくさんの緑とかわいい動物達に囲まれて身も心もほっこり癒されました。(小林景子)



だいぶ良かったです(市川雅俊)



時間厳守の行動が素晴らしく、牧場でのんびりゆったり自然にふれ、動物達と遊べました。武州さんの対応もスムーズで、ガイドさんのお話も楽しくて思い出になりました。来年も又やりましょう！
武州さん、アテさんありがとう。(田渕)



乳しぶり感動しました！こやぎとこひつじ
がとてもかわいくて癒されました！(m o e)



ほんとに梅雨ですか？ってなくらい
の晴れ具合☆羊はもこもこ、コヤギ
はぷるぷる、ソフトクリームはとろ
とろの大満足な1日でした☆(EB)

9. かりん燈特別企画 in 東京 (5/23)

「トークセッション 介助者たちは、どう生きていくのか?」に参加して

白石さん、榎本さん2人のアテさんが、障害者の介護保障と介助者の生活保障を国に対して訴える活動をしている、「かりん燈」という団体のトークセッションに参加しました。なので、感想を聞いてみました。

くさらに知りたい人は、コチラ
「かりん燈～万人の所得保障を目指す介助者の会」のホームページ URL は、
<http://www.k4.dion.ne.jp/~karintou/index.html> です。

『かりん燈特別企画 介助者の生き方・働き方を考える集い』

in 中野 行ってきました☆

約1割の障害当事者を含め、参加者は80人くらいいたでしょうか(もつといたかも)。真ん中に出演者が床座りしその周りを参加者が取り囲む形の会場はぎっしり満員で、立ち見も出ました。前半は出演者の意見発表、後半は参加者全員でのフリートークで、その後夜の公園で朝まで二次会でした。

まず議題に上ったのは介助者の不安定な生活と将来展望について。賃金を上げることより所得保障を求める人が多いようでした。社会に不可欠な仕事なのに、安心して働けないのはおかしい!と私も感じました。次に介助職の専門性とは何かということ。スキルをどう評価し、報酬に反映させるか。その流れで介助者と利用者の適切な距離・良い関係についての議論になりました。「介助者は手足?それともお友達?」…おそらくベストな答えは永遠に出ないでしょう。でも出ないのが正解なのだと思います。マニュアル化せず考え続けることでしか介助者という仕事の質は上がっていくのではないかと思います。それから、9割が女性である介助職のジェンダー問題について。これについては次回女性介助者の集会をやろう!ということで盛り上りました。これまであまりなかった介助者同士の横の繋がりを持ち、仕事の悩みや将来への不安などと共に向き合えたことはとても有意義で、心強い経験となりました。

白石 純子

「介助者たちは、どう生きていくのか?」

このタイトルを目にした瞬間、私はこの【かりん燈・特別企画・介助者の生き方、働き方を考える集い】に参加してみようと、ごく自然に絶対に、思いました。これは自分にとっては当事者すぎるタイトルです。「介助者として」であり「どう生きるか?」ですから。特に生きるに関しては『利用者さんと同じ時間を生きる』もあり『介助で収入を得て生活をして生きる』もありな訳です。きっと参加したら自分と同じように「当事者すぎる」と思っている人達が大勢いて、是非ともそんな人達の意見を聞けたらと思い、とても興味があったのです。

でも実際に参加して感じたことは、3時間という短い時間の中で「介助者が介助を必要とする人と共にこれからどのように働き、生きていったらいいのだろう?」をテーマに考えて議論するには当然のことながら、とても時間が足りなくて賃金・キャリアアップ・感情労働・手足論・ジェンダー論 etc 様々な項目についての意見が飛び交っていましたが、私にしてみたら、全ての項目についてじっくり考える隙ヒマがなく、参加者の人達の意見が走馬灯のように回っているだけという感じでした。考えていきたい大切な項目がたくさん有り過ぎて、そして全て無視出来ないものであるから、つい時間が足りなくなってしまった…という状態で、他に発言したい人達が何人も手を挙げていましたが時間切れとなり残念でした。

確かに今日の介助者の現状は制度的・将来的・精神的など様々な角度で問題は山積みかもしれません。当然、議論したい項目も幅広くなると思います。だからこそ、このような集いは回を重ねる必要があるのだと思います。項目の一つ一つに時間をかけ、より噛み砕いていくことで介助者の働く意識も徐々に変わっていくような気がしました。次回またこのような機会があれば参加出来たらと思います。小さな可能性ですが、私のような一介助者がなるべく足を運んで、経験や意見を提示することで間接的にでも、介助者の社会的地位の確立や生活保障の充実に繋がっていけばと思います。

そしてかりん燈さんや(障害)当事者の人達のデモや財務省直接交渉などの活動により、4月からの報酬単価改定に至るまでの報告や自分と同じ立場で仕事をしている人達の話を聞いたりする経験が出来たことには、とても心強いものを感じました。参加して良かったです。この参加は自分の中でのキャリアアップの一環と捉えています。

榎本道子

編集後記

やっぱり今回もバタバタな編集でした。割と記事が多かったもので。でも、いつにもましてCILの活動が多かったっていうことです。HPやら通信やらで色々な利用者の方の所に伺う機会ができる、とても嬉しいです。色々な人とつながっていくことで、関わりあった人同士の生活が楽しくなると良いなと思っています。

小日向

<会費納入のお願い>

NPO法人 自立生活センター・東大和は皆様の会費が運営
資金となっております。今後も障害を持っていても自分らしい
地域生活を送るために必要な様々なサポートを提供していく
ためご協力ををお願いいたします。



個人会員：3,000円／1口
賛助会員：3,000円／1口
団体会員：10,000円／1口

<受付時間>

平日9:00～18:00

緊急連絡はいつでもつながります

NPO法人 自立生活センター・東大和

〒207-0014

東京都東大和市南街1-22-6 テイコト南街1F

TEL: 042-567-2622

FAX: 042-567-2912

EMAIL: cil-ymt@violin.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://cil-ymt.com>



2009年 ASIA TRY やります!!

TRYってなに?

障害者を中心に、歩き野宿をしながら、公共交通機関のバリアフリーや、障害者の自立生活を訴える活動です。

2007年には、自立生活センター東大和も、アジア11ヶ国の障害者とその仲間たちと一緒に韓国(ソウル)まで"200キロ!!"の道のりを歩きました! 覚えてますか??

今年は、台湾で"やっちゃいます!!"

台湾はまだまだ障害者の自立がしにくい現状です...。そのためご協力お願いします!!

Tシャツ1着1,000円ですよ

とてもカッコイイデザイン!

M・Lサイズ 白・黒 いずれも千円

募金活動しませんか?

7/20(月)祝日、7/28(火),
8/2(水), 8/9(日), 8/16(日)

立川とかで"おこないます!"

いっしょに募金箱もって声出そう!

どちらも
2009年
台湾TRYの
活動資金に
使わせて
いただきまちゅ

自立生活センター-東大和

★ 担当 小日向・高沼 ★